

平成30年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」・「読み解く力」における平均正答率の比較

松江第六中学校

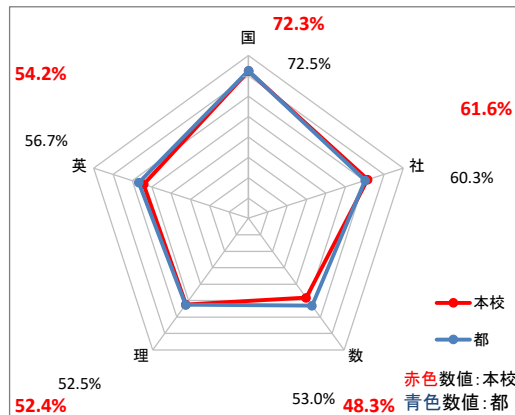
国語	教科の観点						読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	92.5%	68.1%	78.0%	70.5%	70.1%	73.2%	85.8%	64.2%	62.4%	69.2%	72.5%
本校	91.0%	61.3%	78.0%	71.0%	71.7%	72.8%	85.1%	68.1%	55.3%	69.1%	72.3%
都との差	-1.5	-6.8	0.0	0.5	1.6	-0.4	-0.7	3.9	-7.1	-0.1	-0.2

社会	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	94.4%	59.9%	57.6%	62.0%	62.9%	62.9%	42.9%	46.8%	50.9%	60.3%
本校	96.8%	59.4%	56.6%	66.9%	64.2%	66.5%	43.6%	45.7%	52.0%	61.6%
都との差	2.4	-0.5	-1.0	4.9	1.3	3.6	0.7	-1.1	1.1	1.3

数学	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	77.6%	41.6%	53.9%	58.8%	55.6%	49.6%	49.3%	35.4%	45.4%	53.0%
本校	71.8%	35.5%	53.0%	52.8%	52.2%	44.3%	40.4%	21.3%	36.6%	48.3%
都との差	-5.8	-6.1	-0.9	-6.0	-3.4	-5.3	-8.9	-14.1	-8.8	-4.7

理科	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	86.7%	45.7%	61.4%	46.8%	53.4%	78.7%	49.8%	19.5%	49.4%	52.5%
本校	87.2%	46.2%	60.4%	46.0%	53.0%	76.6%	52.1%	22.3%	50.4%	52.4%
都との差	0.5	0.5	-1.0	-0.8	-0.4	-2.1	2.3	2.8	1.0	-0.1

英語	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	82.6%	31.7%	69.5%	59.3%	60.2%	45.2%	52.9%	37.4%	45.2%	56.7%
本校	79.3%	20.7%	65.4%	62.1%	56.9%	46.8%	48.9%	39.9%	45.2%	54.2%
都との差	-3.3	-11.0	-4.1	2.8	-3.3	1.6	-4.0	2.5	0.0	-2.5



《都との比較にみる本校の状況》
 本校の「教科の観点」と「読み解く力」の各観点の数値を東京都の平均値と比べると、19項目で数値が上回っている。そして、数値が同じ項目が2項目であった。逆に、数値が下回っている項目が30項目もあった。その中で、マイナス5%の範囲を超えている項目は3分の1にあたる10項目あった。さらに、マイナス10%を超えるものは2項目あった。数学の「読み解く力」の「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」については、マイナス14.1%、また、英語の「教科の観点」の「外国語表現の能力」がマイナス11.0%であった。数学については、数学的な文章題の問題について苦手意識をもっている生徒も多く、最後まで読み解く力が十分に備わっていないことが考えられる。英語については、英作文において完全な解答が書けないと思って、無記入にした生徒が多かったのが原因の1つとして考えられる。

《授業改善のポイント》
 数学科では、数学的な文章題の問題について苦手意識をもっている生徒が多いので、その分野についての演習時間を増やし、小テストの実施をこまめに行っていく。授業で扱う題材についても、数学的な文章の読み取りのために、視覚的に理解できるようにものに工夫していく。英語科では、表現活動として話すことに重点をおいてきたが、今後は短めの文章から書いてみるという取り組みを増やし、苦手意識を払拭して取り組めるように支援していく。

《家庭・地域への働きかけ》
 学校内で教育活動を充実させるために、学校を取り巻いている地域の人たちにも、授業参観や学校公開などで具体的な教育活動を見てもらう。その上で、その生徒たちの充実した学習環境づくりのために、地域と家庭と学校の三位一体の協力態勢を確立していく。特に学習内容の定着を図るために、自主学習や宿題などがしっかりとできるような家庭の方にも協力をお願いしていく。